

平成28年度

自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日

事業報告書

公益財団法人 木村看護教育振興財団

平成 28 年度 事業 報告 書

1 海外看護研修助成－長期海外研修－（公募事業）

看護師・助産師・保健師の資格を有する者であって一定の英語力を有するものを対象として、3 週間の研修に要する研修費、滞在費、往復航空運賃等を全額助成する。平成 28 年度は以下のとおり実施した。

① 研修先

アメリカ合衆国ミネソタ州ロチェスター メイヨークリニック

② 研修者数

次の 7 名を派遣した。

及川敦子（独立行政法人国立国際医療研究センター病院）、佐藤寧子（国立病院機構東京医療センター）、長山由紀子（水戸済生会総合病院）、丸山理恵（済生会横浜市東部病院）、柳瀬加奈（兵庫県災害医療センター）、山口美千代（国立病院機構北海道医療センター）、横田優美子（東北大学医学部付属病院）

③ 研修期間

平成 28 年 9 月 10 日(土)から 10 月 2 日(日)までの 3 週間
(別紙「事業報告に関する附属明細書」を参照)

2 看護研究助成（公募事業）

医療機関等で実際に看護等の業務に携わっている看護師・助産師・保健師の資格を有する者又はその者を含む研究グループを対象として、1 件当たり 100 万円を限度として助成する。

平成 28 年度は、次の者が代表研究者である 9 件の研究に対し助成した。

新幡智子（代表研究者 慶應義塾大学 看護医療学部）、石井絢子（代表研究者 東京大学大学院医学系研究科）、上杉英生（代表研究者 国立がん研究センター東病院）、梅澤路絵（代表研究者 関西労災病院）、岡本麻美子（代表研究者 日本医科大学武蔵小杉病院）、奥野史子（代表研究者 聖路加国際病院）、金岡麻希（九州大学大学院医学研究院保健学部）、清水史恵（大阪府立箕面支援学校）、東めぐみ（東京都済生会中央病院）

(別紙「事業報告に関する附属明細書」を参照)

3 専門看護師奨学金助成（公募事業）

看護系大学大学院専門看護師教育課程 2 年次進級予定者に対して、1 件当たり年額 60 万円の助成を行う。

平成 28 年度は次の 12 名に対して助成を行った。

熱田恵美（神戸市看護大学大学院）、押切美佳（東北大学大学院）、窪田美智代（兵庫県立大学大学院）、佐々木由佳（大阪府立大学大学院）、新友香子（山梨県立大学大学院）、菅澤勝幸（千葉大学大学院）、永野晶子（大阪府立大学大学院）、広瀬知美（名古屋大学大学院）、福田侑子（山口大学大学院）、水島加奈子（川崎医療福祉大学大学院）、三角素子（久留米大学大学院）、吉田麻美（大阪大学大学院）

(別紙「事業報告に関する附属明細書」を参照)

4 看護に関する講演会の開催

(1) 東京における開催

次の通り、第 71 回看護に関する講演会として開催した。

- ① 日 時 平成 28 年 11 月 5 日（土）13 時 30 分～17 時 30 分
- ② 会 場 東京都千代田区霞が関 新霞が関ビル灘尾ホール
- ③ 演 題 「未来を拓く 看護の力 - 地域医療構想を学ぶとともに地域における医療看護介護の推進に取り組む」
- ④ 内 容
 - ア 基調講演 1 松田晋哉 産業医科大学医学部公衆衛生学／産業保健データサイエンスセンター 教授
「地域医療構想をどう策定するか」
 - イ 基調講演 2 リズ・ボルドン氏 メイヨークリニック上級看護師
「Mayo Clinic Health System : Past, Present and Future」
 - ウ パネルディスカッション
「地域医療・看護の充実に向けた取組みと看護教育を考える」
ファシリテーター
山田雅子 聖路加国際大学 看護学部 教授
パネリスト
片山智栄 桜新町アーバンクリニック ナースケアステーション
所長

柳澤美津代 東京慈恵会医科大学付属柏病院 看護部長
都築晃 藤田保健衛生大学 地域包括ケア中核センター 講師
小島菜保子 同大学同センター 訪問看護ステーション管理者・看護
科長
シェリー・ウルフ メイヨークリニック CNS

基調講演 1 では、松田教授から 47 都道府県で策定されている地域医療構想の目的、概要、具体例及び課題について詳細な報告があった。基調講演 2 では、平成 27 年 11 月の東京講演会でポーリーン・アブラハム氏が紹介したメイヨークリニックの遠隔診療ネットワークについての詳細な紹介がなされた。また、パネルディスカッションでも、詳細かつ丁寧な事例報告により在宅医療・看護に関わる実践や教育活動についての意欲的な取組みが紹介された。

なお、その詳細を「木村看護教育振興財団 平成 28 年度東京講演会の記録」として平成 29 年 6 月を目途に刊行する予定である。

⑤ 参加者 462 名

(2) 富山県における開催

富山県看護協会との共催により、次の通り第 72 回看護に関する講演会を開催した。

- ① 日 時 平成 28 年 11 月 19 日 (土) 13 時 30 分～16 時 30 分
- ② 会 場 富山県看護協会 看護研修センター
- ③ 講 師 宮崎和加子氏
前 一般社団法人全国訪問看護事業協会事務局長
一般社団法人だんだん会理事長
- ④ 演 題 在宅療養推進における看護の連携
- ⑤ 参加者 214 名

5 新たな研修助成の創設に向けた調査

(1) 高度な看護スキルに係る研修助成の調査

- 本調査は、高度な看護スキルについて専門的な研修が実施されている場合において、その研修を希望する看護職者に対する助成が当財団の目的・理念に合うか、財務条件等に合致するかについて検討し、適切と認められる場合に新たな事業とすることを目的として実施している。

○ 財団事務局は、平成 25 年度から 28 年度までの間に病院で勤務する 9 領域 21 名の専門看護師等から意見を聞くなど、ニーズや研修の存在等について検討してきている。

○ 29 年 3 月末の検討状況は以下のとおりである。

まず、専門看護師を対象に行ったヒアリングの結果、多くの方は専門性に相応しいテーマを持って独自の調査・研究を行っている一方、不特定多数の他者とともに受講者として学ぶ一般的な研修へのニーズは認められなかった。

並行して、特定の領域等についてヒアリングを行ってきており、以下のようなニーズを認めている。

- ① 末期がんなど死に直面した患者とその家族に対するケアのために既に一定レベルの知識経験・スキルを有する看護師を対象として平成 26 年度から行われている専門的看護ケアプログラムによる研修への資金面の支援
- ② チーム医療を高度に実践していく参考とするため、海外医療機関における医師・看護師・その他スタッフが行う意思決定や連携状況、情報共有について現場で学びたいとのニーズ

○ 上記①は緩和ケア推進を目的として専門的な研修を行っている公益法人の取組みであり、研修のツールである専門的緩和ケア看護師教育プログラム（略称 SPACE-N）は非公表であるが、一昨年 11 月、当財団に特別に開示された。現在、当財団は、SPACE-N 修了者が所期の研修効果を臨床の現場で示しているか等について、検証結果と客観データの提供を求めている。なお、同法人は平成 28 年度から同研修の有効性等について検証を進めている。

②については、現在、メイヨークリニックにおける 2 回目研修をどのように実施するか検討しているが、その中で対応することも考えられ、今後メイヨークリニックの意向確認等の中で具体化を考えることとする。

(2) 訪問看護に必要な看護スキルに係る研修助成の調査

○ 本調査は、在宅医療・訪問看護に関する看護スキルに対するニーズに応える専門的な研修が実施されており、その研修を希望する看護職者に対する助成が当財団の目的・理念に合うか、財務条件等に合致するかについて検討し、適切と認められる場合に新たな事業とすることを目的として実施している。

○ 本調査は、これまで在宅医療・訪問看護の実態や課題、支援策について説明を受け意見交換等を行い、ニーズの存在、研修の存在等を検討してきている。

主な訪問先として、厚生労働省、東京都、日本看護協会、首都圏所在看護協会、日本訪問看護財団等において全国的な実態と支援策を聞くとともに、東京大学大学院、京都大学大学院及び同医学部附属病院、国立長寿医療研究センター、千葉大学大学院、聖路加国際大学及び同病院、慈恵医科大学付属柏病院、藤田保健衛生大学及び同病院地域包括中核センター、淀川キリスト教病院、尾道市民病院、山形県鶴岡地区医師会、東京都板橋区医師会、22の訪問看護ステーション等において、在宅医療に関する取り組みの実態と課題を聞いている。

また、笹川記念保健協力財団から、平成26年度から始めている訪問看護ステーションの起業をめざす看護師支援研修についてヒアリングを行っている。

これらを通じて、以下のことを把握した。

- ① 平成28年4月現在、全国で訪問看護ステーションは9,000を超えるが、殆どは小規模であり経済的余裕がないため職員を研修に出せない。このため、一部の自治体では、財政支援を行って研修の機会を提供する事業を行っている。
 - ② 研修ニーズは体験型から単独で訪問看護ができることを目指すものまで多様であるが、幅広い研修ニーズに対応できる研修実施主体は訪問看護師10名を超える体制を備え経営に余裕がある事業体である。
 - ③ 在宅医療・訪問看護の推進という観点から、訪問看護サービスの支援とともに、急性期病院における円滑な在宅療養移行支援も重要である。
- 平成29年3月末現在、当財団が助成する条件を備えている研修プログラムや研修例は見当たらない。当財団は、直近5年、看護研究助成、専門看護師奨学金助成、講演会等の事業実施において、在宅医療・訪問看護の推進という観点を意識しながら取り組んできているが、当面、更に取り組みを強める。

6 刊行物の発行等

① 海外看護研修レポート2015

関係機関・施設の参考に供するため、これまでで最多部数であった平成27年度の1,080部を維持し、全看護系大学及び350床以上の病院に提供した。

② 看護研究集録23

看護研究集録についても、平成27年度の900部を維持し、全国の看護系大学及び主要な病院に配布した。

③ 「平成28年度 東京講演会の記録」

当財団創設22周年記念講演会(平成25年)以降、毎年11月に開催してい

る講演会は好評であり、講演内容等についての問合せが多い。

このため、講演会の内容を記録し全国の看護系大学・病院等での活用に供するため、登壇者やメイヨークリニックの協力を得て、講演、プレゼンテーション等を収録した「東京講演会の記録」の作成作業を行っており、28年度の講演についても近く刊行の見込みである。発行部数は、全看護系大学と350床以上の病院、看護関係者等を対象として1,400部程度を予定している。

7 助成金贈呈式等及び医療・看護関係者の集い等

(1) 平成28年度助成金贈呈式

平成28年6月15日(水)、看護研究助成及び専門看護師奨学金助成の対象者に対して、理事、評議員等が出席し霞が関ビル35階で開催した。

(2) 海外看護研修認定式・オリエンテーション及び研修報告会

① 認定式・研修オリエンテーション

平成28年7月1日(金)、平成28年度研修生に対して認定式を行うとともに、オリエンテーションを霞が関ビル35階で実施した。

② 研修報告会

平成28年12月27日(火)、霞が関ビル35階で理事、評議員等並びにメイヨークリニック研修経験者等一般の方も出席して開催した。

(3) 米国看護師と我が国看護師との交流に関する支援

平成28年10月24日(月)から11月6日(日)まで我が国に滞在したメイヨークリニックの上級看護師4名と我が国の看護系大学やナショナルセンター、病院等が交流するに当たり、当財団は、事前に交流に関する日程調整等を行うとともに、自らも米国看護師との意見交換や視察の支援等を行った。

(4) 国内外の看護関係者の集いの開催

平成28年11月5日(土)夜、霞が関ビル35階東海大学校友会館において、第71回講演会の開催に引き続き、看護関係者の集いを開催した。

パーティでは、木村代表理事の挨拶に続き、厚生労働省医政局長、日本看護協会会長(代理)、日本訪問看護財団理事長、全国訪問看護事業協会会長、メイヨークリニックのリズ・ボルドン氏の挨拶が寄せられ、関係機関・団体やこれまでの当財団助成対象者も多数来場され170名を超える盛会となった。

会場は、関係機関の方々、メイヨークリニックの方々、メイヨークリニッ

ク等であつて研修した助成対象者等が活発に交流し、我が国と米国の医療・看護に関する情報交換もなされるなど有意義な集いの場となった。

(5) 平成 29 年度の助成事業に対する公募及び応募者への対応

- ① 当財団の 3 助成事業の公募に関する周知を深めるため、公募開始を 1 週間早め、平成 28 年 10 月 11 日（火）から平成 29 年 1 月 25 日（水）までを期間として公募を行った。
- ② 3 助成事業の公募のお知らせは、財団ホームページに掲示するとともに、看護専門誌 10 誌にも公募のお知らせの掲載を行った。

以上

平成 28 年 度

事業報告に関する附属明細書

- 1 海外看護研修助成者名簿
- 2 看護研究助成者名簿
- 3 専門看護師奨学金助成者名簿

平成28年度 海外看護研修助成対象者名簿

敬称略 五十音順

氏 名	勤 務 先	職 名
おけいかわ あつこ 及川 敦子	国立国際医療研究センター病院	副看護師長 がん化学療法看護認定看護師 (看護師)
さとう やすこ 佐藤 寧子	国立病院機構 東京医療センター	精神看護専門看護師 (看護師・保健師)
ながやま ゆきこ 長山 由紀子	水戸済生会総合病院	看護師 (看護師)
まるやま りえ 丸山 理恵	済生会横浜市東部病院	老人看護専門看護師 (看護師・保健師)
やなせ かな 柳瀬 加奈	兵庫県災害医療センター	看護係長、救急救命士 (看護師・保健師)
やまぐち みちよ 山口 美千代	国立病院機構 北海道医療センター	副看護師長 がん化学療法看護認定看護師 (看護師)
よこた ゆみこ 横田 優美子	東北大学病院	看護師 (看護師・保健師)

平成28年度 看護研究助成対象者名簿

9件 6,943千円

敬称略 五十音順
単位:千円

代表研究者氏名	勤務先	職名	研究課題	助成額	申込額
あらはた 新晴 智子	慶應義塾大学 看護医療学部	専任講師	専門的緩和ケア看護師教育プログラムの有効性の検証 ー臨床実践における自己評価と他者評価ー	1,000	1,000
いしい 石井 絢子	東京大学大学院医学系研究科	大学院生	全国の急性期病棟における看護補助者・看護師の就業状況実態調査 ー看護師・患者アウトカムとの関連ー	1,000	1,000
うえすぎ 上杉 英生	国立がん研究センター東病院	看護師長	認定・専門看護師による診断・治療開始時期のがん患者と家族へのオリエンテーション・プログラムの開発	500	1,000
うめざわ 梅澤 路絵	関西労災病院	看護師長	大腿骨近位部骨折で治療を受ける高齢患者のせん妄発症予防プログラムの提案 ーテキストマイニングによる看護師の予測・判断の分析からー	360	360
おかもと 岡本 麻美子	日本医科大学武蔵小杉病院	助産師	経産分娩に至った高年初産婦の妊娠期の血圧変動及び体重変動指標の開発 ー35歳未満初産婦の妊娠期の血圧変動及び体重変動の比較を通してー	863	863
おくの 奥野 史子	聖路加国際病院	精神看護 専門看護師	急性期総合病院におけるせん妄予防と対策 ーリスクアセスメントツールとせん妄軽症化を目標としたケアプログラムの開発ー	1,000	1,000
かなおか 金岡 麻希	九州大学大学院医学研究院保健学部	助教	肝移植後患者の生活習慣病と日常生活における身体的活動量に関する研究	900	1,000
しみず 清水 史恵	大阪府立箕面支援学校	特別非常勤講師 (看護師)	特別支援学校で医療的ケアを要する子どもをケアする学校看護師の離職予防対策の検討	620	820
ひがし 東 めぐみ	東京都済生会中央病院	副看護教育部長 看護教育センター長	港区および周辺地域における地域包括ケアを推進する人材育成システムの構築	700	1,000
合 計				6,943	8,043

平成28年度 専門看護師奨学金助成対象者名簿

12名

敬称略 五十音順

氏名	大学院名	専門分野
あつた えみ 熟田 恵美	神戸市看護大学大学院	小児看護
おしまり みか 押切 美佳	東北大学大学院	小児看護
くぼた みちよ 窪田 美智代	兵庫県立大学大学院	老人看護
ささき ゆか 佐々木 由佳	大阪府立大学	小児看護
しん ゆかこ 新 友香子	山梨県立大学大学院	急性・重症患者看護
すがさわ かつゆき 菅澤 勝幸	千葉大学大学院	がん看護
ながの しょうこ 永野 晶子	大阪府立大学大学院	家族支援
ひろせ ともみ 広瀬 知美	名古屋大学大学院	小児看護
ふくだ ゆうこ 福田 侑子	山口大学大学院	急性・重症患者看護
みずしま かなこ 水島 加奈子	川崎医療福祉大学大学院	がん看護
みすみ もとこ 三角 素子	久留米大学大学院	感染症看護
よしだ まみ 吉田 麻美	大阪府立大学	在宅看護